

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/06/01

米中の景気減速懸念と欧州債務不安が重なる

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↓	くすぶる追加利下げ観測 予想レンジ: 72.00 ~ 78.50 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	↓	一部でNZの利下げ観測が浮上 予想レンジ: 57.00 ~ 62.20 円	4-5
<u>ランド/円</u>	↓	欧州不安を受けて不安定な展開か 予想レンジ: 8.50 ~ 9.90 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



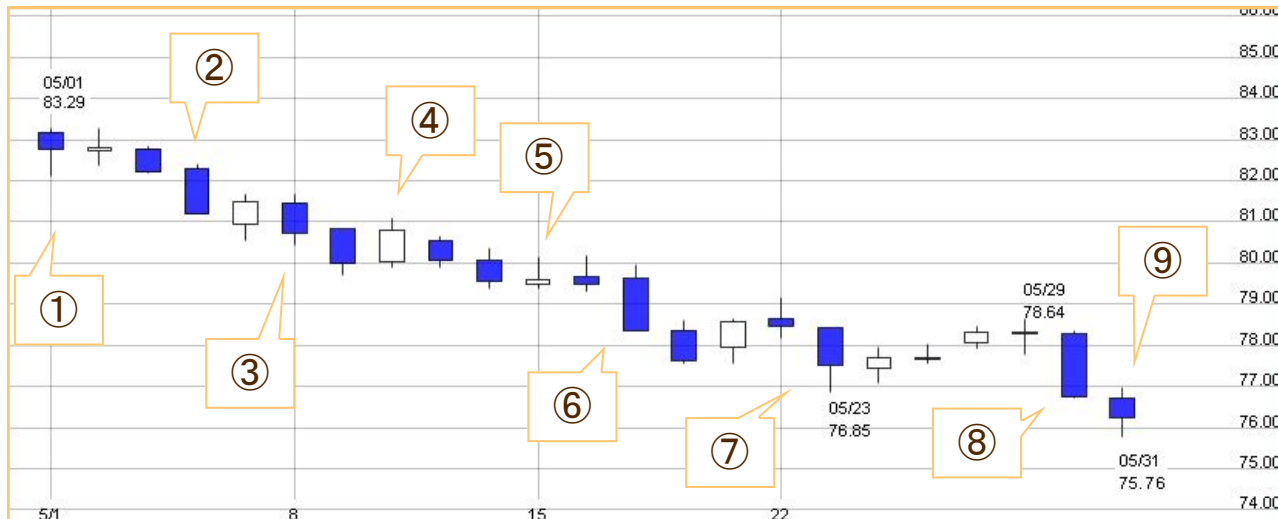
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	83.18円	83.29円	75.76円	76.25円



- ① 1日、市場では0.25%利下げが優勢の中、豪準備銀行(RBA)が0.50%利下げを発表。予想以上の利下げ幅を嫌気して豪ドル売りが強まると、その後82.11円まで売られた。
- ② 4日、RBA四半期金融政策声明を発表。その中で2012年と13年のGDP見通しを約3%と従来予想(12年が最大3.5%、13年が同4%)より引き下げたほか、基調インフレ率見通しも12年が2%と従来の2.5%より引き下げ、今後の利下げ余地を残したため、発表直後は豪ドル売りが優勢となった。その後買い戻される場面もあったが、米4月非農業部門雇用者数の伸びが予想を大きく下回った事を受け、NYダウ平均が下落。原油相場の軟調推移も重なり、豪ドル/円は引けにかけて81.19円まで下げた。
- ③ 8日、前週末のギリシャ総選挙で第2位の得票となった急進左派連合(SYRIZA)党首が「同国救済の条件の誓約は、選挙後は無効」などと発言。同国支援の先行き不透明感からリスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は80.44円まで値を下げた。
- ④ 10日、豪4月失業率が4.9%、新規雇用者数が1.55万人増と予想(5.3%、0.50万人減)を上回り、豪ドル/円は80.70円まで急騰。ただその後、中国4月貿易収支にて、輸出・輸入共に前年比の伸びが前月から大きく鈍化した事を受け、豪ドル/円は反落した。
- ⑤ 15日、RBA理事会の議事録で「海外情勢がなお不透明」など伝えられた事を受けて豪ドル/円は79.38円まで下げたが、反応は一時的であった。
- ⑥ 17日、スペインの銀行バンキアの預金流出が10億ユーロ超になったとの報道を受けて、同行株が一時20%を超える下げ幅を記録。米5月フィラデルフィア連銀景況指数が-5.8と予想を大きく下回ったこともあり、欧米株が下落。豪ドル/円は引けにかけて78.35円まで値を下げた。
- ⑦ 23日、「ユーログループの作業部会がユーロ圏諸国に、ギリシャのユーロ離脱の可能性に対する個別の緊急時対応計画を準備するよう要請」と報じられ、NYダウ平均の下げに伴って豪ドル/円は下落。
- ⑧ 30日、豪4月小売売上が前期比-0.2%と予想(+0.2%)を下回り、豪ドル/円は約30銭下落。一部では次回6月5日のRBA理事会での追加利下げ観測が浮上した。その後もスペインの財政懸念を背景にリスク回避の動きが強まると、豪ドル/円は一段と値を下げた。
- ⑨ 31日、欧州不安がくすぶる中、米5月ADP全国雇用者数を始め米経済指標が軒並み市場予想を下回り、リスク回避の動きが一段と加速してNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、豪ドル/円は昨年11月以来となる75.76円の安値を記録した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

5月の豪ドル/円相場は75.76円～83.29円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約8.3%の下落(豪ドル安・円高)となった。ギリシャやスペインを始めとした欧州債務問題や、米国や中国経済の減速懸念を背景に、月を通じて軟調な相場展開となった。

現状では欧州債務問題の当面の出口が見えない上、ギリシャ再選挙など、欧州の政治・経済情勢に対する不透明感は根強く、今月の豪ドル/円もリスク回避の動きが強まる場面では売られやすいだろう。先月28日、スティーブンスRBA総裁が中国の景気減速に言及するなど、中国と豪州の経済的結びつきが強まっている現在、中国が景気刺激策を取る様子を見せていない事も、豪ドル相場の重荷である。ただ、先月25日に発表されたシカゴのIMMポジションでは、豪ドルは過去2番目のショートを記録。これを理由に、一部では豪ドルが売られすぎているとの見方も浮上している。欧州共同債に向けた議論の前進など欧州債務懸念が和らぐ、または中国の追加金融緩和が期待される局面では、株価上昇と共にショートカバーを誘って豪ドル/円が買い戻される事も考えられる。

一方、今月5日のRBA理事会について、金利先物市場では先月末時点で0.25%利下げを完全に織り込むなど、利下げ観測が根強い事も豪ドルの上値を重くしている。政策金利と同時に発表される声明文にも注目であり、RBAが利下げに踏み切る場合は追加利下げの有無、金利据え置きの場合は今後の世界経済の見通しから利下げ時期に、市場の関心が集まりそうだ。その他、翌6日に発表される豪第1四半期国内総生産(GDP)や7日の豪5月雇用統計、19日のRBA議事録にも、今後のRBAの金利動向を読む上で注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 72.00～78.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

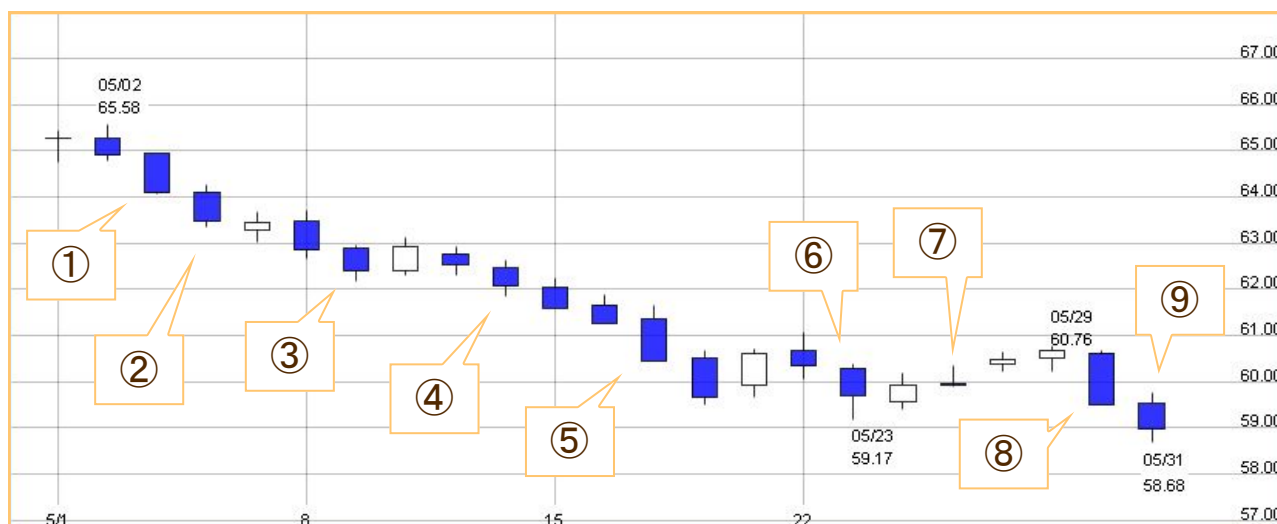
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/1(金)	5月中国製造業PMI	6/9(土)	5月中国消費者物価指数
	5月米雇用統計	6/10(日)	5月中国貿易収支
	5月米ISM製造業景況指数	6/13(水)	5月米小売売上高
6/5(火)	第1四半期豪經常収支	6/15(金)	日銀金融政策決定会合(14日～発表)
	RBAキャッシュターゲット		6月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	5月米ISM非製造業景況指数	6/17(日)	ギリシャ再選挙
6/6(水)	第1四半期豪GDP	6/18(月)	G20首脳会議(～20日)
	欧州中銀金融政策発表	6/19(火)	RBA議事録
	米地区連銀経済報告(ページブック)	6/20(水)	米FOMC政策金利発表
6/7(木)	5月豪雇用統計	6/21(木)	ユーロ圏財務相会合
	バーナンキFRB議長議会証言	6/22(金)	EU財務相理事会
6/8(金)	3月日貿易収支	6/27(木)	EU首脳会議(～28日)
	4月豪貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	65.29円	65.58円	58.68円	58.97円



- ① 3日、NZ第1四半期失業率が6.7%と予想(6.3%)より弱い内容となった。これを受け、発表直前に急落していたNZドル/円は64.45円まで一段安となった。
- ② 4日、米4月非農業部門雇用者数の伸びが予想を大きく下回った事を手掛かりにNYダウ平均が下落すると、リスク回避の動きからNZドル/円は63.36円まで下げた。
- ③ 9日、NZ準備銀行(RBNZ)は半期に一度の金融安定レポートを公表。「物価がさらに下落しても、NZドルは高い水準を維持する可能性」「商品価格の下落は輸出企業の重し」「最近のNZドル下落は、商品相場下落や弱い経済指標、欧州情勢などを受けたもの」などが伝えられたが、金融政策について直接的な言及はなかったため、市場の反応はほとんど見られなかった。
- ④ 14日、NZ第1四半期小売売上が前期比-1.5%と予想(-0.5%)を大きく下回った。これを受けてNZドル/円が一時的に弱含んだ。
- ⑤ 17日、NZ第1四半期生産者物価指数が前期比-0.1%と予想(±0.0%)を下回ったが、市場の反応は薄かった。しかし、スペインの銀行バンクアの預金流出が10億ユーロ超になったとの報道を受けて同行株の下落率が一時20%を越えた。また、米5月フィラデルフィア連銀景況指数が-5.8と予想を大きく下回ったこともあり、欧米株の下落に連れてNZドル/円は引けにかけて60.45円まで値を下げた。
- ⑥ 23日、NZ政府は2012/13年度の予算を発表。2015年までの財政黒字目標は堅持するも、黒字見込み額を今年2月時点での3.70億NZドルから1.97億NZドルに下方修正した。ただ、市場の反応は薄かった。その後、「ユーログループの作業部会がユーロ圏諸国に、ギリシャのユーロ離脱の可能性に対する個別の緊急時対応計画を準備するよう要請」と報じられると、NYダウ平均の下げに伴ってNZドル/円は59.17円まで売られた。
- ⑦ 25日、NZクライストチャーチでM5.2の地震が発生。これを受け、NZドル/円は地震発生前の水準から20銭弱値を下げる場面が見られた。
- ⑧ 30日、スペインの財政懸念を背景に欧米市場でリスク回避の動きが強まると、NZドル/円は59.49円まで大きく値を下げた。
- ⑨ 31日、欧州不安がくすぶる中、米5月ADP全国雇用者数を始め米経済指標が軒並み市場予想を下回り、リスク回避の動きが一段と加速してNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、NZドル/円は昨年12月以来となる58.68円の安値を記録した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

5月のNZドル/円相場は58.68円～65.58円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約9.6%の下落(NZドル安・円高)となった。ギリシャやスペインを始めとした欧州債務問題や中国経済の減速懸念を背景に、月を通じて軟調な相場展開となった。

欧州債務問題の混迷や、中国経済の減速懸念を背景に、足下ではリスク回避の動きが強まっている。特に欧州情勢については依然として落ち着きどころが見えないため、今月も欧州の債務懸念が一段と強まる場面では、リスク資産とされるNZドルには売り圧力が掛かりやすいと見る。

一方、NZ国内では14日に政策金利発表が予定されている。RBNZの金利見通しについて、先月23日にNZ財務省が2013年初めまで、NZ経済研究所(NZIER)が2014年始めまで、それぞれ金利を据え置くとの見通しを示したことで、市場では当面の間金利が据え置かれるとの見方が強まっている。ただ先月末時点での金利先物市場では、今月の政策金利発表での0.25%利下げの確率を約52%織り込んでいる他、NZIERが「ユーロ圏の債務問題が悪化した場合には利下げを行う」との見通しを示すなど、一部で利下げ観測も浮上している。仮に金利が据え置きとなる場合、今後の金利動向を読む上で、政策金利発表の際に伝えらる声明に注目したい。(川畑)

(予想レンジ:57.00～62.20円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/1(金)	5月中国製造業PMI	6/14(木)	RBNZオフィシャル・キャッシュレート
	5月米雇用統計	6/15(金)	日銀金融政策決定会合(14日～発表)
	5月米ISM製造業景況指数		6月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
6/5(火)	RBAキャシュターゲット	6/17(日)	ギリシャ再選挙
	5月米ISM非製造業景況指数	6/18(月)	G20首脳会議(～20日)
6/6(水)	欧州中銀金融政策発表	6/20(水)	第1四半期NZ経常収支
	米地区連銀経済報告(ページブック)		米FOMC政策金利発表
6/7(木)	バーナンキFRB議長議会証言	6/21(木)	第1四半期NZGDP
6/8(金)	3月日貿易収支		ユーロ圏財務相会合
6/9(土)	5月中国消費者物価指数	6/22(金)	EU財務相理事会
6/10(日)	5月中国貿易収支	6/27(水)	5月NZ貿易収支
6/11(月)	第1四半期NZ製造業売上高		EU首脳会議(～28日)
6/13(水)	5月米小売売上高	6/29(金)	5月NZ住宅建設許可

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	10.24円	10.43円	9.13円	9.17円



- ① 4日、米4月非農業部門雇用者数の伸びが予想を大きく下回った事を手掛かりにNYダウ平均が下落すると、リスク回避の動きからランド/円は10.17円まで下げた。
- ② 7日、前日のギリシャ総選挙の結果、連立与党で過半数の議席を確保できない可能性が浮上。取引開始直後ユーロ/円の下げ主導で、ランド/円は10.08円まで連れ安となった。しかしその後、マーカス南ア準備銀行(SARB)総裁が「利下げ余地はほとんどないか、まったくない」と発言。NYダウ平均の持ち直しもあり、10.22円まで反発した。
- ③ 8日、南ア第1四半期失業率が25.2%と予想(23.6%)より弱い結果となり、ランド/円はわずかに値を下げた。
- ④ 17日、スペインの銀行バンキアの預金流出が10億ユーロ超になったとの報道を受けて同行株が一時20%を越えて下げ、米5月フィラデルフィア連銀景況指数が-5.8と予想を大きく下回ったこともあり、欧米株が下落。ランド/円は引けにかけて9.46円まで値を下げた。
- ⑤ 23日、南ア4月消費者物価指数が前年比+6.1%と南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(年3~6%)を上回るも、予想(+6.2%)を下回ったため、市場の反応は特に見られなかった。だがNY市場にて「ユーログループの作業部会がユーロ圏諸国に、ギリシャのユーロ離脱の可能性に対する個別の緊急時対応計画を準備するよう要請」と報じられ、NYダウ平均が下げ幅を拡大すると、ランド/円は9.38円まで売られた。
- ⑥ 24日、SARBは政策金利を5.50%に据え置いた。その際の声明文では、従来2012年第2四半期と予想していたインフレのピークを今年の第1四半期に変更し、欧州を始め世界経済の不確実性の強い環境では金融緩和の立場を継続する事が適切と指摘したが、市場の反応は限定的であった。
- ⑦ 29日、南ア第1四半期国内総生産(GDP)が前年同期比+2.7%(前回:+3.2%、予想:+2.4%)となったが、市場の反応は薄かった。
- ⑧ 30日、スペインの財政懸念を背景に欧米市場でリスク回避の動きが強まると、ランド/円は9.20円まで大きく値を下げた。
- ⑨ 31日、欧州不安がくすぶる中、米5月ADP全国雇用者数を始め米経済指標が軒並み市場予想を下回り、リスク回避の動きが一段と加速してNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、ランド/円は昨年11月以来となる9.13円の安値を記録した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

5月のランド/円相場は9.13円～10.43円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約10.4%の下落(ランド安・円高)となった。ギリシャやスペインを始めとした欧州債務問題や中国経済の減速懸念を背景に、月を通じて軟調な相場展開となった。

先月のランド/円の下落率は10%を越え、豪ドル(約8.3%)やNZドル(約9.6%)よりもきつい下げとなった。その背景には、ユーロ圏は南アフリカの最大の貿易相手地域であり、経済的結びつきが強いことがある模様。今月もギリシャのユーロ離脱懸念やスペインの金融・財政不安が意識されるようだと、リスク回避の動きからランド/円はオセアニア通貨以上に下げ幅を拡大する可能性がある。また、中国や米国の景気減速懸念からくる株安の動きも、ランド/円相場の上値を重くしそうだ。ただ、先月のランド/円相場はほぼ一本調子で下落しており、先月31日には一時9.13円まで下落、昨年11月に付けた2011年安値(8.94円)に迫る場面が見られた。欧州債務懸念が和らいで株価が反発局面入りとなれば、ランド/円が買われることも考えられる。(川畑)

(予想レンジ:8.50～9.90円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/1(金)	5月中国製造業PMI	6/15(金)	6月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	5月米雇用統計	6/17(日)	ギリシャ再選挙
	5月米ISM製造業景況指数	6/18(月)	G20首脳会議(～20日)
6/6(水)	欧州中銀金融政策発表	6/20(水)	5月南ア消費者物価指数
	米地区連銀経済報告(ページブック)		米FOMC政策金利発表
6/7(木)	バーナンキFRB議長議会証言	6/21(木)	第1四半期南ア経常収支
6/8(金)	3月日貿易収支		ユーロ圏財務相会合
6/9(土)	5月中国消費者物価指数	6/22(金)	EU財務相理事会
6/10(日)	5月中国貿易収支	6/25-29	5月南ア生産者物価指数
6/13(水)	4月南ア実質小売売上高	6/27(木)	EU首脳会議(～28日)
	5月米小売売上高	未定	5月南ア貿易収支
6/15(金)	日銀金融政策決定会合(14日～発表)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。